


## 園だより 2月

いかに幸いなことでしょう あなたによって勇気を出し  
心に広い道を見ている人は  
詩編 84 篇 6 節



10年に一度の大寒波もなんのその。幼稚園で遊ぶ子どもたちは元気です。園内のあちらこちらで3学期ならではの子どもたちの豊かな遊びが展開された1月でした。その遊びはどの様子も微笑ましく、1年間の成長を感じるものでもありました。


先日キリスト教保育連盟関東部会の研修で『もしかして、愛着障がい??— 気になる子どもの理解と対応について—』と題して、一般社団法人 親と子どもの臨床支援センター 帆足 暁子先生から学びを頂戴しました。

たくさんの課題の中で、ぜひ保護者の方々にお伝えをしたいと思う項目がありました。それは、マルトリートメント・・・虐待とは言い切れない、大人から子どもに対する良くないかわり「子どもへの避けたいかわり」・・・マル(悪い)トリートメント(あつかい)・・・マルトリ。このマルトリとなっている最近の無意識な子育て状況についてです。

先生が挙げておられた6つのポイント①子どもが泣いていても無視し続け、スキンシップをとらない。②子どもが泣いているのは気づいていても、ゲームがやめられない。③子どもと一緒にいても、メールやラインの返信に夢中。④子どもに話しかけられても応えない。⑤子どもが泣いたりぐずったりすると、モバイル機器にあやしてもらおう。⑥子どもと外食をしても、ずっと動画を見せておく。なんと①以外は全てモバイル機器に関連しているものでした。このお話を聞きながら、私が今子育て中だったら、きっと良くないと分かっているにもかかわらず、やっていたに違いないと思いました。だからこそ保護者の方々にお伝えしたいと。

先生は「今の無意識な子育て状況は、子どもの生活の世話はできていても、コミュニケーション不足が過度に続き、意識しない間に子どもの心に問題を生じさせてしまう。現代では、愛着障がいと診断されないまでも、マルトリが原因で愛着の形成に問題が生じ、対人関係や社会生活に大きな影響を与えるケースが増加している」ともおっしゃっておられました。そして子どもにとって欠かせないのは『大人に甘える(くつつく)時間』ですと。

子どもたちは確かにくつつくことが大好きです。コロナ禍でソーシャルディスタンスを、と言われて数年になりますが、もうそろそろ皆でくつついて安心し合いましょう。愛着関係「心の基地」をしっかりと築いて参りましょう。そこから、自己肯定感や他者への基本的信頼感が育まれます。2月も宜しく願い申し上げます。



園長 駿河 幸子

